

学校通信



喜多見



No.8 令和4年12月23日

喜多見の学び舎

世田谷区立喜多見中学校

校長 紺谷 祥一

〒157-0067 東京都世田谷区喜多見4丁目20番1号 TEL 03-3417-4971(代)
E-mail: dai131@setagaya.ed.jp http://school.setagaya.ed.jp/tkitami/

コロナ禍と「ジャンナーの法則」

校長 紺谷 祥一

一年の世相を一字で表す「今年の漢字」は、「戦」になったとのこと。ロシアによるウクライナ侵攻がその背景に大きくあるのですが、学校や子どもたちにとっては今年もコロナ禍との戦いでもありました。12月を迎えると一気に時の経つのは早いと感じます。年をとるほどに、その思いが強まる気がするのには本当に不思議です。この、年齢を重ねるにしたがって時間が過ぎるのを早く感じる現象を「ジャンナーの法則」と呼ぶそうです。

フランスの心理学者であるジャンナーは、主観的に記憶される年月の長さは年少者にはより長く、年長者にはより短く評価されるという現象を心理学的に解明しました。少し難解なのですが、生涯のある時期における時間の心理的長さは、年齢の逆数に比例する（年齢に反比例する）という理論です。例えば50歳の人間にとって、1年の長さは人生の50分の1であるのに対し、5歳の子どもにとってのそれは5分の1に相当する。だから、50歳の人間にとっての10年間は、5歳児にとっての1年間にあたる。つまり、5歳児の1日が、50歳の人の10日に相当するという理屈です。

ジャンナーによる主観的に記憶される年月の長さ（体感の時間）

$$365日(1年) \times 24時間(1日) \times \frac{1}{50} = 175.2時間(50歳の体感1年)$$

$$365日(1年) \times 24時間(1日) \times \frac{1}{5} = 1752時間(5歳の体感1年)$$

すると、私たちは
今、14歳だから…



子どもにとっても大人にとっても、物理的に異なるはずのない「時間」ですが、発達の段階で感じる速度に違いがあるのはとても興味深いです。こちらの背景には、経験したことのないことをやっている時は、人の意識にはそれが強く残り、その時間を長く感じるという心理が働くようです。この一方で、やっている対象にひとたび慣れてしまうと、時間の長さが気にならなくなり、あっという間に時間が過ぎたように感じるとのこと。幼いころは初めて体験することも多く、それらは新鮮に感じられ、喜びや出会い、発見等があるものです。大人になるにしたがって、新しい経験をする機会はどうしても乏しくなってしまいます。大人になると時間があっという間に過ぎ去ってしまったと感じるのは日々の生活に新鮮味がなくなるからだ、という理屈はうなずけます。こう考えると、長きにわたるコロナ禍下での生活を続ける子どもたちは、コロナ禍以前の子どものように時間を長く感じているのではないかと心配になってしまいます。（だから、特別な活動下での子どもたちのその笑顔は、飛び切り輝いて見えるのかもかもしれません…。）そして、「時間」や「機会（＝チャンス）」がいかに貴重であるかを一層強く感じます。

本校は、今年も「できる限りの最大限」の理念の基、その機会を担保する教育活動について、一定程度展開することはできました。これも保護者や地域の皆様の厚い理解と応援のお陰と深く感謝しています。また、手前味噌ではありますが、子どもや保護者の皆様の期待に対し、「よし、応えよう！」と、コロナ禍にあっても使命感をもって挑戦しようとする熱い教職員スタッフに恵まれていることにも、私は感謝しています。しかしながら、コロナ禍は手ごわく、ここまでやれば充分という域はまだ見えません。来年もまた、子どもたちの笑顔のために、スタッフ一同、一丸となって頑張ります。そして、子どもたちも一層持ち前の主体性を発揮し、たとえば、『今日の〇時間目の〇〇の時間、楽しくてあっという間に感じたなあ～！』という声が、たくさん聞こえてくるのを期待します。

令和4年第1回合同学校協議会の報告 地域の声を学校運営に反映

11月18日（金）、喜多見小学校にて「喜多見の学び舎」の合同学校協議会が開催されました。今回は特に、子どもを取り巻く環境や最近報告の多い不審者事案等について、各方面からご意見や提案がありました。小学校児童に対する「声掛け事案」や、廃屋などの気になる場所等についての情報交換がありました。何と、会議のあった日の午後には、まちづくりセンター長の宮戸様から電話が入り、『先ほど話題に上がった廃屋について区の担当者と連絡をつけ、子どもが立ち入ることのないよう封鎖し、注意喚起の張り紙をしました。』との連絡がありました。子どもたちの安全や健全育成に向けすぐに尽力いただき、感謝です。



1 年 生 の 様 子 か ら (齋 藤 優 太)

9月10日(土)に種まきを行い、喜多見中学校伝統の大蔵大根作りはスタートしました。そこから3カ月、1年生は音楽発表会や河口湖移動教室も同時並行で経験し、大根とともに濃い時間を共有して成長してきました。今月15日(木)、ついに収穫の時を迎えました。日本語の授業では、大蔵大根の歴史を学んだり、間引き菜を使った調理レポートを作成したりと、大蔵大根を通して様々なことを学んできました。また、大根リーダーを中心に、水やり→寒冷紗設置作業→アグリシート敷き→間引き→寒冷紗撤去作業など、貴重な経験もたくさんしてきました。頑張った日々を振り返り、すくすくと育った大蔵大根の大きさに驚きながら、楽しく収穫することができました。自分たちで育てた大蔵大根は、他の大根よりも一段と美味しいと思います。大蔵大根作りに関わったたくさんの人たちに感謝を込めて、美味しくいただきます。



2 年 生 の 様 子 か ら (菊 地 正 明)

冬休みが始まるにあたり、まずは二学期の自分の姿をしっかりと振り返りましょう。三者面談は、学級での生活や学習、部活動、将来の進路などを話題として進められたことと思います。面談後、より豊かな学校生活を送るため、先生のアドバイスをすぐに実行に移そうとしている生徒の姿を見ると、とても嬉しい気持ちになりました。三年生にとっては、卒業後の進路を決めるとても大切な面談でした。来年は皆さんの番です。残された時間の中で計画的に自分の進路を決めなければなりません。二年生の皆さんにとって、「良い学校」とはどのようなところですか。(殆どの生徒が進学を希望するので、あえて「学校」と表現しますが、)次のように考えます。「あなたが一生懸命に努力することで、あなたの良さを最大限伸ばせる場所」であれば、それは、あなたにとって



「良い学校」に違いありません。これからの一年間、そう思える学校をたくさん見つけて欲しいと思います。また、成績だけを見て「入れる学校」に目を向けることよりも、「入りたい学校」に合格するために、どのような努力が必要であるかを考え、生活や成績を向上させる努力を続けて欲しいと思います。

3 年 生 の 様 子 か ら (紺 谷 祥 一)

校長:『その夢を叶えるために欠かせないものを3つ挙げてください』、Aさん:『はい、絶対にあきらめない気持ち、努力、そして、よく寝て食べること、この3つです』、校長:『ほほう、ではその中で一番自信のあるのはどれですか?』、Aさん:『はい、寝ることです!!』 — 12月22日までに第一志望の高校入試を想定した、3年生の面接練習を終了しました。去年も感じたことですが、喜多見中生はとにかく天真爛漫。また、志望理由を答える場面では、単に校風や部活動の良さや進学実績の高さのみに終始せず、その学校を知ったきっかけ、説明会参加前後の印象の違い、卒業後の計画等を含めた、「ストーリー」をしっかりと準備するよう指導しました。具体的に目指す職業をまだ決めていなくても、「社会の役に立つような職業」や「持ち前の正義感を活かせる仕事」など、どんな生き方をしたいのかを少しでも語れると、印象は大きく異なること等のアドバイスもしています。どの生徒に対しても、私がその高校の先生なら「絶対に入学させたい。合格!」と強く感じさせる、愛すべき3年生。素直さもほどほどにしながら、たくましく「壁」を乗り越えられるよう応援します。頑張れ、3年生!



わたしの 授業

今号は家庭科を担当いただいている、講師の松井洋子先生(本校2年目)の授業紹介です。生徒の生活実態に寄り添いながら、いつも明るく楽しい家庭科の授業を展開する松井先生。子どもたちの「自立と共生」をめざす、先生の優しく強いメッセージをしっかり受け取ってください!

中学校の家庭科教科書の表紙には「自立と共生」と書かれています。1年生の授業の初めに「これが家庭科のキーワードです。」と生徒に伝えます。「みんなの目標は、自立することだよ。自立にはいろいろな自立があるよ。生活的な自立もあるし、経済的な自立もあるし。だから学校に来て色々な教科を学んだよ。」と言います。また、人間は一生涯、一人では生きられません。縄文時代からお互いに助け合って生きてきました。家族や友達と協力し、困ったときには助けを求める、それが共生です。それを基軸として、家庭科では生活に関することを学んでいきます。家族・食生活・衣生活・消費生活と環境。家族の保育分野では「人の育ち方には個人差がある」「人が育っていくうえで周りの環境は大事である」と学びます。日々の生活は当たり前に進んでいくけれど、その日々が中学生にはとても大事だと思っています。小学校・中学校での学びはその生徒の一生に影響を与えると感じます。体の中に入った学びが失われることはありません。

授業では時々「昨日の睡眠時間は何時間かな?」「今日は朝ごはん食べてきたかな?」「夕食の時間は何時だった?」「お手伝いしてるかな?」「お家の方と最近どんな話をした?」と日常生活に関する会話が度々出てきます。「あなたはこのことについてどう思う?どう考える?」ということも授業では大事にしています。生活において答えは1つではないからです。それに加えて時間軸で家族関係や自分の立ち位置が徐々に変わっていくことを意識してもらうように努めています。また、実習を通して、手先をまんべんなく使うことの大事さや時間をかけて作品を作り上げていくことでの達成感を生徒に感じてほしいと思います。

喜多見中の周りの畑や自然が原風景になる幸せな生徒たち、100歳まで生きていくことが当たり前になるであろう生徒たち。彼らのこれからの生活の助けになることを、一つでも授業で学ばせることができればいいなと思っています。(写真:1年生に刺し子を指導中の松井先生)





今号の「わたしのきたみち」は、大学生ボランティアとして活躍している 能野 仁己先輩 (H. 27 年度卒) です。『中学校時代から、いつもニコニコ笑顔。それでいて冷静で、周囲に気配りのできる生徒だったわ〜』とは、田中先生の言。先輩はスクールカウンセラーをめざして勉強中です！

はじめまして！ 私は、平成 27 年度に喜多見中学校を卒業しました者です。私の中学卒業後の進路としては、都立多摩科学技術高校（以下“たまかぎ”とします）へ進学したのち、現在は立教大学現代心理学部心理学科で勉強をしているという、かなり異色な進路を進んでいます。

なぜ、こんな進路になったのかというと、その時その時の自分の好きなこと・興味のあることをやりたいと思った結果です。中学生の時は、理科の実験や数学が好きだったので、都内有数の SSH（スーパーサイエンススクール）でもあった“たまかぎ”へ進学し、実験や研究を行っていました。そんな理系まみれの高校生活を過ごしたのち、心理学という文系（正確には文理系）の進路に進んだのも、高校生（特に高校 3 年生）の時に人のところに興味を持ったからです。ここで、1 つ勘違いしてほしくないのですが、決して理系の勉強に嫌気がさしたわけでも、高校生活が嫌だったわけでもありません！ 理系の学部へ進学し、理系を極めることよりも、心理学を勉強することに興味が湧いたのです。

さて、ここまで簡単に私の中学卒業後の進路を記しましたが、あまり私の進路を参考にはしない方が良くと思います（笑）。ただ、進路選択の決定打として「好きなこと・興味のあることをやる」というのは非常に良いことだと思います。もし、その好きなこと・興味のあることに何かしらの理由（将来〇〇になりたいから等）があるならば、その後の学校生活を送るモチベーションになるため、なお良いでしょう。なくても全然かまいません。ちなみに、私は高校を決めた時も、大学を決めた時も「なんとなく好きだから、興味があるから」でした。なので、たまには自分で自分自身のことを振り返ったり、同級生や先輩、後輩、先生方との交流を通して自分は何が好きなのか、何に興味があるのかということを探してみたりするというような中学校生活を送ってみてもいいのではないのでしょうか。



喜多見中名物大蔵大根大収穫 ～世田谷の誇りとしてのバトン～

12 月 15 日(木)に第 1 学年が日本語や総合的な学習の時間の一環で取り組んでいた、大蔵大根の収穫を行いました。大蔵大根とは江戸時代に、豊多摩郡（現在の杉並区あたり）の源内という農民が作り出した「源内つまり大根」が原種と言われています。それが世田谷区の大蔵原に伝わり、更に改良を重ねて「大蔵大根」となりました。優れた形状と品質で好評を博し、昭和 40 年代ごろまで世田谷の至る所で栽培されていましたが、昭和 49 年に誕生した病気に強く栽培しやすい青首大根の普及に伴い、大蔵大根は次第に姿を消していきました。しかし、世田谷の古き良き野菜を見直していこう動きの中で、平成 9 年から区内農家の方々が協力し合い再び栽培を始めました。今ではせたがやそだちの野菜の一つとして人気商品になった「大蔵大根」は、地域の方々のご尽力や伝統を未来に繋ぐという想いによって守られてきました。そんな大蔵大根は、生徒にとっても自分たちが暮らす世田谷の誇りとしてのバトンが繋がりました。特に栽培にご協力いただいた地域の永井様、池田様、小泉様には感謝申し上げます。



先輩から後輩へ ～「伝える」、そして「繋がる」～

今年度の重点目標の一つとして「生徒同士の関係づくりの推進」を掲げています。長引くコロナ禍の影響により、同級や同学年の仲間とは何とか絆を深めつつあっても、先輩や後輩との交流は部活動以外にはなかなか望めていませんでした。そんな中、修学旅行に行った 3 年生が、「反省会」と題した非常に楽しい報告会を 2 年生に披露したり、自分を成長させた一場面を切り取り、そこにクローズアップする企画（「記憶に残る一瞬」）を 1 年生対象に発表したりする場面がありました。また、2 年生も「キャリア・アップ報告会」として、職場体験を通じた自己の成長を言葉で表現する場を設定し、その姿を 1 年生に見せました。「本番」に備えて余念なく準備したり、「聞き手」を意識して発表したりする先輩たちにとっても、持ち前の企画力や表現力を高める絶好の機会。後輩たちにとっては、間もなく訪れる「自分の番」への心構えや、「先輩を越えよう」という決意を抱く時間ともなっている模様。見学に来校されていた保護者の中には、目頭を熱くされている方もいたほどでした。職員室では、『こうした企画をコロナ禍に限らず、喜多見の伝統にしたい』という声があがりました。



教務主任 齋藤先生による通知表の読み方と活用方法

喜多見中学校の先生方は、皆さんの成績を付けるためにたくさんの研修を積み「学習評価は、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためのものである。」という共通認識をもち、日々の学習評価に努めています。

そこで強く言いたいのは、5段階の評定だけを見て一喜一憂するのではなく、観点別のA・B・Cの評価にこそ注目して、自分の得意な部分や苦手なこと、努力の結果や改善点を見出して欲しいということです。

今までの成績の結果やアンケート等の結果から、2学期の全教科をとおした観点別評価のA・B・Cの割合を1学期と比較して分析していくと、自己評価が高い3年生は、観点別評価も1学期と比べて相対的にAの割合が高くなっており、反対に「壁」を感じている1年生は、観点別評価もAが減り、Cが増えてしまっているということが言えます。生徒一人一人を見ても「授業の目標やねらいを意識して、意欲的に授業に取り組むことが評価の向上につながっていく」ということが明確です。より一層、日頃の授業を大切にしていきたいと思います。

次に、観点別評価の一つである「主体的に学習に取り組む態度」についての話です。「主体的に一」は、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて、粘り強い取組を行おうとする側面と自らの学習を調整しようとする側面という二つの側面から評価を行っています。つまり、真面目に取り組んでさえいれば、必ずしも「A」の評価がつくというものではないということを理解しておいてください。もし、授業には真面目に取り組んでいるし、提出物も全部出しているのに「B」の評価がついているという人は、その取り組み状況をもう一段階レベルアップさせていきましょう。具体的には、ノートに板書内容を書き写すだけでなく、自身が抱いた疑問点を調べてまとめたり、提出物の取り組み状況を見直し、完成度を高めることや取り組み方を工夫したりする等の改善が有効的です。通知表の結果を、3学期の学習にうまく生かしていきたいと思います！



ご協力、ありがとうございました

学校関係者評価の提出についてご協力いただき、感謝申し上げます。記述欄にはご要望やご意見の他、職員への労いや励まし等々たくさんお寄せいただきました。ご質問等への回答は精査終了次第に順次回答する予定です。疑問や不安ごと等あれば、遠慮なくいつでもご相談ください。



冬季休業中の緊急連絡等について

12月29日（木）から1月3日（火）は学校休業日です。この間、学校には日直の教員は勤務していません。また、警備員は常駐していますが、緊急連絡等は4日以降にご連絡願います。なお、生命にかかわる事故や事件（特に不審者遭遇等を含む）の際は迷わず110番通報してください。ご協力をお願いします！

職員室直通ダイヤル：03-3417-4971（平日：8時15分から16時45分まで）

警備室直通ダイヤル：03-3417-4972（12月29日から1月3日以外の緊急時）

1月の予定から

1月10日（火）始業式

14日（土）土曜授業、**1年生セーフティ教室・協議会**

体育館：8時50分から9時40分、協議会（図書館）：9時50分から10時20分

成城署からスクールサポーターが来校。SNSトラブル講話、110番通報のシミュレーション等を実施予定 ※19日配付プリント参照 ご来校ください！

19日（木）百人一首大会（⑤1年生、⑥2年生）

20日（金）漢字検定

23日（月）生徒会朝礼

26日（木）都立高校推薦入試（～27日）

30日（月）学校公開・学習成果展覧会（～2月4日）



1月10日（火）始業式 当日について

【登 校】通常登校（8時25分までに登校）**標準服登校です！**

※8時00分までにロイロで健康観察結果を送信してください。

【持ち物】通知表、宿題、しおり、その他学年で決められたもの
※学年だより等を参照してください。

【下 校】12時10分頃の予定です。（給食なし）

1月の相談室の開室日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10 □	11	12 ○	13	14
15	16	17 □	18	19 ○	20	21
22	23	24 □	25	26 ○	27	28
29	30	31 □	1	2 ○	3	4

【担当SC】□：相川 ○：高瀬

【場 所】相談室は中央校舎1階 保健室の隣です

**相談室直通ダイヤル
03-3417-5372**

本年も、保護者ならびに地域の皆様には本校教育活動に対し、深いご理解と厚いご協力を賜り心より感謝申し上げます。来る2023年も、子どもたちの輝く笑顔のために引き続き喜多見中職員は一人丸となって努めます。コロナ禍の収束はまだ見えませんが、皆様どうぞご自愛いただき良い年をお迎えください。